

ポートフォリオの全体像と詳細事例報告の構造に関する説明（2022年版）

ここでいうポートフォリオとは、家庭医療専門医に求められる臨床能力を示す事例を集めたものであり、次のことを記述する必要がある。

1. その事例を選んだ理由
2. 事例の記述と考察（実践した具体的内容および今後の学習課題の設定を中心とした省察とその根拠）

報告する事例の領域は家庭医療専門医を特徴づけるものとし、その数は前項の内容を記述した詳細な報告を20事例および簡易な報告を20事例とする。

その領域と事例数は下記に示す。

1. 家庭医療専門医を特徴づける能力【以下の赤丸数字項目の全て：詳細5事例】

(ア) 患者中心・家族志向の医療を提供する能力

- ① BPSモデル：bio-psycho-social model を用いて問題解決を試みた症例
- ② 家族志向型ケア：家族カンファレンス、もしくは家族が問題を解決するために援助をおこなった症例

(イ) 包括的で継続的、かつ効率的な医療を提供する能力

- ① 統合型ケア：複数の健康問題を抱える患者に統合されたケアを実践した症例
- ② 行動変容：行動変容のアプローチを用い、患者教育をおこなった症例

(ウ) 地域・コミュニティをケアする能力

- ① 地域健康増進：地域における疾病の予防やヘルスプロモーションに関する活動

2. 全ての医師が備える能力【以下の赤丸数字項目の全て：詳細5事例】

(ア) 診療に関する一般的な能力と患者とのコミュニケーション

- ① EBM：EBMに基づいた意志決定を日常の診療に応用するために取り入れたシステムや工夫の事例
- ② コミュニケーション：患者や家族とのラポール形成やコミュニケーションに困難があったにもかかわらず、問題を解決して良好なコミュニケーションをとるに至った症例

(イ) プロフェッショナリズム

- ① プロフェッショナリズム：医師としてのプロフェッショナリズム(誠実さ、説明責任、倫理など)を意識しながら問題解決に取り組んだ症例

(ウ) 組織・制度・運営に関する能力

- ① 施設管理・運営：研修施設の管理／運営に関して、業務の改善に貢献した事例
- ② チーム・ネットワーク：研修施設内外のスタッフとの良好なチームワークやネットワークの構築・促進に貢献した事例

3. 教育／研究【以下の赤丸数字項目全て：詳細2事例】

(ア) 教育

- ① 学生・研修医に対する1対1の教育、もしくは、教育セッションの企画運営に取り組んだ事例

(イ) 研究

① 研修期間中に取り組んだ臨床研究の事例

※ 1～3 までの詳細報告計 12 事例

4. 家庭医療専門医が持つ医学的な知識と技術【詳細 8 事例, 簡易 20 事例】

以下の健康問題について、必要な医学的知識と技術を十分に活用しながら、家庭医療専門医の立場から問題解決に取り組んだ症例を報告する。

詳細事例については、症例の詳細な経過報告、問題の分析から解決に至るプロセス、症例に対する省察、今後の課題などを網羅する。

簡易事例については、診療施設名、患者イニシャル、年齢、性別、初回診察日または入院日、最終診察日または退院日、診断名、転帰および短い事例要約から構成される。

(ア) 個人への健康増進と疾病予防【詳細 1 事例】

(イ) 小児・思春期のケア【詳細 1 事例】

(ウ) 高齢者のケア【詳細 1 事例】

(エ) 終末期のケア【詳細 1 事例】

(オ) 女性・男性・性の多様性に関する健康問題【詳細 1 事例】

(カ) リハビリテーション【詳細 1 事例】

(キ) メンタルヘルス【詳細 1 事例】

(ク) 救急医療【詳細 1 事例】

(ケ) 臓器別の健康問題

【簡易 20 事例：下記の領域からそれぞれ 2 事例で計 20 事例】

- ①心血管系
- ②呼吸器系
- ③消化器系
- ④代謝内分泌・血液系
- ⑤神経系
- ⑥腎・泌尿器系
- ⑦リウマチ性・筋骨格系
- ⑧皮膚
- ⑨耳鼻咽喉
- ⑩眼

※ 4 の詳細報告計 8 事例、簡易報告は(ケ)の①～⑩それぞれ 2 事例で計 20 事例